

みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

シルクロードの織機

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2015-11-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉本, 忍, 柳, 悦州 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5212

地機【UGF-2】

調査年月日 : 1999年7月8日
 調査地 : カイラゴチ (Qairagoch) 村
 民族名 : ウズベク (Uzbek)

型式 : 地機
 材質 : 木, 鉄 (前部経糸保持棒)
 概寸 : 全長436cm, 全幅26cm, 全高16cm
 経糸保持方式 : 固定式
 整経方式 : 平整経織
 開口具設置方式 : 綜統・開口保持棒可動式

構成部品

経糸保持具 : 前部経糸保持棒 (杭)
 <図UGF-2-a-1>
 後部経糸保持棒 (杭)
 <図UGF-2-a-2>
 開口具 : 輪状綜統<図UGF-2-a-3>
 開口保持棒<図UGF-2-a-4>
 緯打具 : 刀状緯打具<図UGF-2-a-5>
 <写真UGC-1-5>
 経糸整列具 : <図UGF-2-a-6><写真UGC-2-b>
 その他 : 経糸支持台<図UGC-2-a-7>

製織中の織物

織技法 : 経編織と経糸浮織(昼夜織)の併用
 地組織 : 経畝組織
 素材 : 羊毛
 用途 : 紐
 経糸全長 : 436cm
 織幅 : 3.6cm

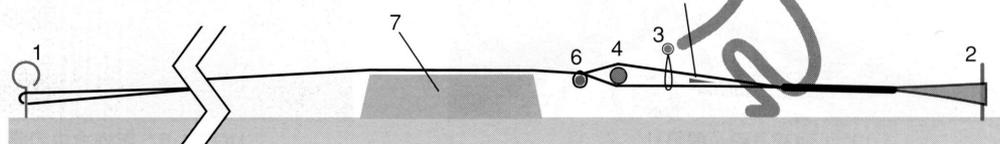
織り手 : 女性1人

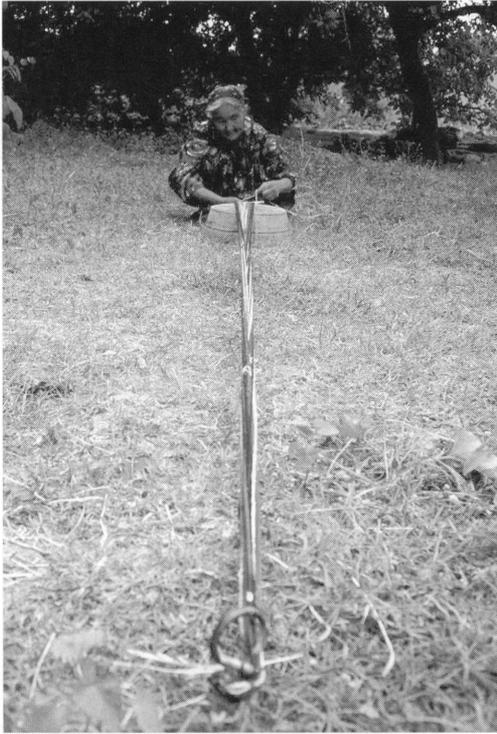


調査メモ

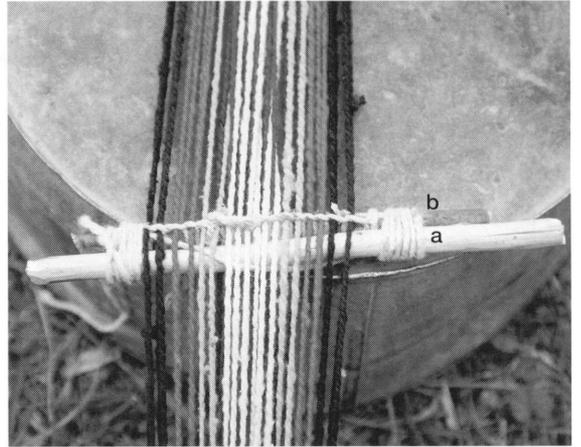
この地機では、細紐が織られている。構成部品は、いずれも簡単なもので、前部経糸保持棒としては太めの針金で作られたペグ、後部経糸保持棒としては釘が使われている。また、緯打具には、刃の部分が磨り減った果物用の小さなナイフが使用されていた。経糸は上糸18本と下糸18本で構成されており、18本の上糸は、経糸整列具の棒にわたして、振り合わせた2本の糸のあいだに1本ずつ通され、均等な間隔に揃えられていた。なお、経糸整列具の棒と開口保持棒は、両端をひとまとめにして、くくり合わされていた<写真UGF-2-3>。機織りでは、経糸の下に洗面器を置いて、経糸の張力を調整するとともに、織りやすい高さをかせぐための経糸支持台としていた<写真UGF-2-2>。また、開口具の設置方式は、綜統と開口保持棒がともに可動式である。経糸の開口操作では、開口保持棒を手前に引き寄せることによって、経糸を開口させ、開口保持棒を遠ざけ、綜統を引き上げることによって、経糸を逆開口させていた。なお、経糸浮織には紋綜統は使われておらず、模様は指で経糸をすくい取って織り出していた。

UGF-2-a 構造図





UGF-2-1 全景



UGF-2-3 開口保持棒-a, 経糸整列具-b



UGF-2-4 逆開口の操作



UGF-2-2 経糸の打ち込み



UGF-2-5 製織途中の織物と緯打具

地機【UGC-1】

調査年月日 : 1999年7月4日
 調査地 : コラングル (Qorangul) 村
 民族名 : ウズベク (Uzbek)

型式 : 地機
 材質 : 木
 概寸 : 全長826cm, 全幅107cm, 全高43cm
 経糸保持方式 : 固定式
 整経方式 : 輪状整経式
 開口具設置方式 : 綜統固定・開口保持板可動式



経糸全長 : 1540cm (全周)
 織幅 : 32cm

織り手 : 女性 1人

構成部品

経糸保持具 : 前部経糸保持棒 (杭)
 <図UGC-1-a-1>
 後部経糸保持棒 (横木)
 <図UGC-1-a-2>
 経糸間接保持具 : 後部経糸保持棒繫留用杭 (2本)
 <図UGC-1-a-3>
 後部経糸保持棒繫留用紐
 <図UGC-1-a-4>
 開口具 : 輪状綜統<図UGC-1-a-5>
 開口保持板<図UGC-1-a-6>
 綜統固定具 : (2本) <図UGC-1-a-7>
 緯入具 : 棒状緯入具<図UGC-1-a-8>
 緯打具 : 刀状緯打具<図UGC-1-a-9>
 <写真UGC-1-6-c>
 開口部記憶紐 : <図UGC-1-a-10>
 経糸整列具 : <図UGC-1-a-11>
 その他 : クッション<図UGC-1-a-12>

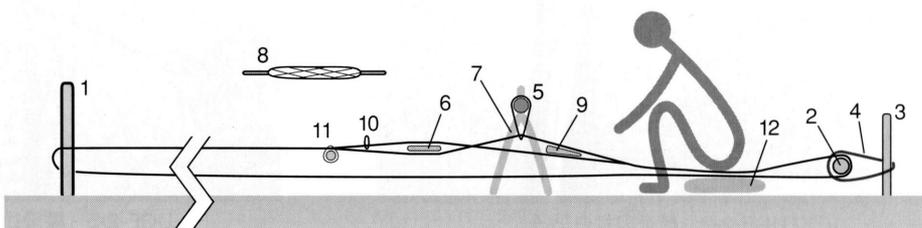
製織中の織物

織技法 : 経縮織
 地組織 : 経畝組織
 素材 : 羊毛
 用途 : カーペット

調査メモ

機織りは、屋外のブドウ棚の下でおこなわれていた。この地機の後部経糸保持棒は、両端が2本の繫留用の杭を介して紐で繋がれており、紐で引き締めることによって、経糸の張力が調整されている。輪状綜統の綜統糸がかけられている綜統棒の両端には、穴があげられており、逆Y字形の綜統固定具が挿し込まれている。経糸整列具の棒は経糸の下面に渡されており、経糸は棒にらせん状に巻いた紐で締め付けて固定されている。織り始めの段階では、織り手は後部経糸保持棒を前にして座って機織りをしていたが、織り進むにしたがって、開口具などの部品を前に移動させるとともに自らも移動し、織った布の上に座って機織りを続けていた。経糸の開口操作では、開口保持板を寝かせた状態で遠ざけることによって経糸が逆開口し、開口保持板を手前に引き寄せて起こすことによって経糸が開口する。ただし、逆開口をおこなう場合には、経糸がからみ合っただけで口が開きにくいことから、経糸を手のひらで押すという補助的な操作を必要としている。なお、緯入具は棒状、緯打具は刀状を呈している。

UGC-1-a 構造図





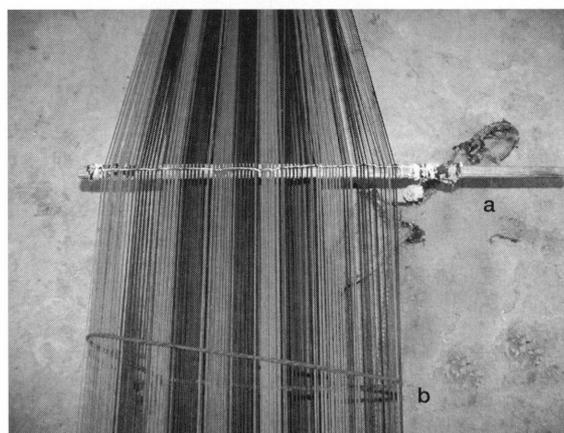
UGC-1-1 開口保持板による経糸の開口



UGC-1-4 全景



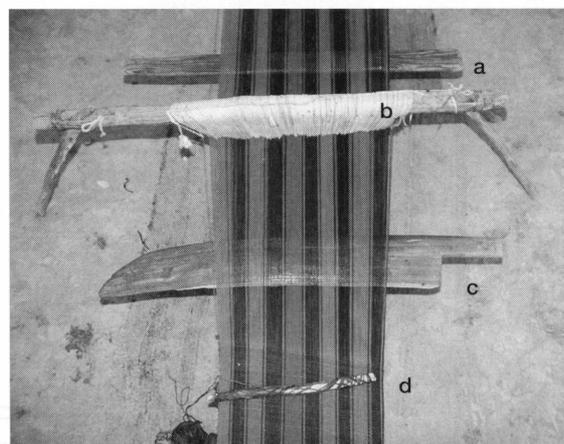
UGC-1-2 緯糸を通すための開口部の拡大



UGC-1-5 経糸整列具-a, 開口部記憶紐-b



UGC-1-3 固定綜紉による経糸の逆開口



UGC-1-6 開口保持板-a, 輪状綜紉-b, 緯打具-c, 緯入具-d

地機【UGC-2】

調査年月日 : 1999年7月5日
 調査地 : エシュボルディ (Eshboldi) 村
 民族名 : トルクメン (Turkmen)



型式 : 地機
 材質 : 木
 鉄 (前部経糸保持棒, 後部経糸保持棒繫留用杭)

開口部記憶紐 : <図UGC-2-a-12>
 経糸整列具 : <図UGC-2-a-13>
 その他 : クッション<図UGC-2-a-14>

概寸 : 全長990cm, 全幅80cm, 全高40cm

経糸保持方式 : 固定式

整経方式 : 輪状整経式

開口具設置方式 : 地組織用開口具
 - 綜統固定・開口保持板可動式
 浮組織用開口具
 - 綜統可動式

製織中の織物

織技法 : 経縞織と経糸浮織 (昼夜織) の併用
 地組織 : 経畝組織
 素材 : 羊毛
 用途 : カーベット
 経糸全長 : 2000cm以上 (全周)
 織幅 : 41.5cm

構成部品

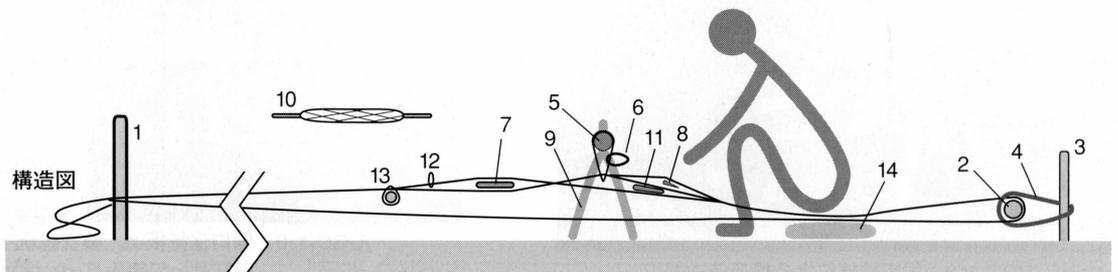
- 経糸保持具 : 前部経糸保持棒 (杭)
 <図UGC-2-a-1>
 後部経糸保持棒 (横木)
 <図UGC-2-a-2>
- 経糸間接保持具 : 後部経糸保持棒繫留用杭 (2本)
 <図UGC-2-a-3>
 後部経糸保持棒繫留紐
 <図UGC-2-a-4>
- 開口具 : 輪状綜統 (地綜統)
 <図UGC-2-a-5>
 輪状綜統付属糸綜統 (紋綜統)
 (2本) <図UGC-2-a-6>
 開口保持板<図UGC-2-a-7>
- 開口補助具 : 浮織用経糸すくい板
 <図UGC-2-a-8>
- 綜統固定具 : (2本1組) <図UGC-2-a-9>
- 緯入具 : 棒状緯入具<図UGC-2-a-10>
- 緯打具 : 刀状緯打具<図UGC-2-a-11>

織り手 : 女性1人

調査メモ

機織りは、住居の一角にある土間でおこなわれていた。この地機の後部経糸保持棒は、両端が2本の繫留用の杭を介して紐で繋がれており、紐を引き締めることによって、経糸の張力が調整されている。開口具のうち、綜統には輪状綜統のほかに、輪状綜統の綜統糸に付属した2本の糸綜統がある。輪状綜統の綜統棒の両端には、穴が明けられており、逆Y字形の綜統固定具が挿し込まれている。輪状綜統は地組織用の綜統で、2本の糸綜統は経糸浮織 (昼夜織) 用の紋綜統として機能している。輪状綜統は固定式であり、経糸の開口操作では、開口保持板を寝かせた状態で遠ざけることによって経糸が逆開口し、開口保持板を手前に引き寄せて起こすことによって経糸が開口する。ただし、逆開口をおこなう場合には、経糸がからみ合っ

UGC-2-a 構造図



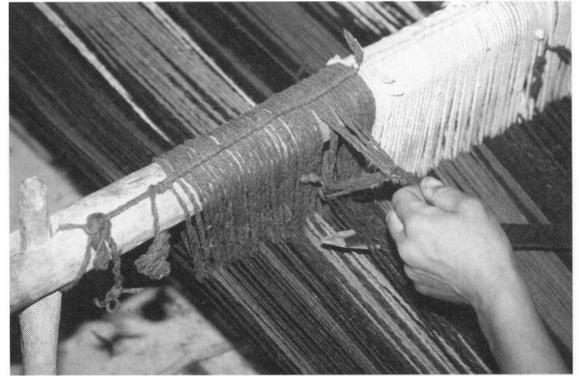
にくいことから、経糸を手のひらで押すという補助的な操作を必要としている。一方、糸綜統は手前に引くことによって、浮織に関係する経糸が引き上げられる。また、糸綜統によって引き上げられた経糸のあいだには、開口操作を補助するために経糸すくい板が挿入される。〈写真UGC-2-5〉。経糸整列具の棒は経糸の下面に渡されており、経糸は棒にらせん状に巻いた紐で締め付けて固定されている。織り始めの段階では、織り手は後部経糸保持棒を前にして座って機織りをするが、織り進むにしたがって、開口具などの部品を前に移動させるとともに、自らも前に移動し、織った布の上に座って機織り作業を続けていた。緯入具は棒状、緯打具と経糸すくい板は刀状を呈している。



UGC-2-4 全景



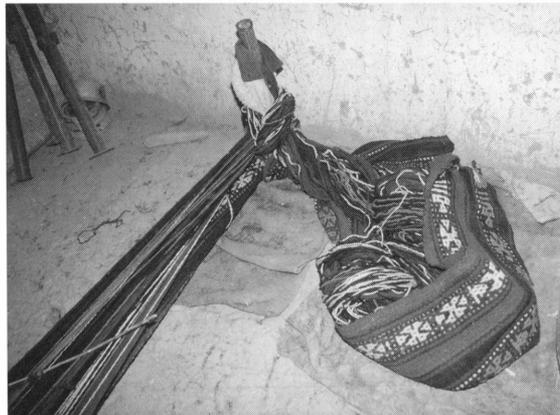
UGC-2-1 織り手



UGC-2-5 輪状綜統付属糸綜統の操作



UGC-2-2 経糸すくい板で経糸をすくい取る



UGC-2-3 前部経糸保持棒



UGC-2-6 製織途中の織物と開口装置